

企業名： 日本板硝子(5202)

レポート名： 統合報告書 2021 年 3 月期

1. この会社が目指す姿が理解できるか

当企業が目指す姿は「先進の発想で変化を起こし、すべての分野で最も信頼されるパートナーとなる」である。日本板硝子は、いたるところで使われるガラス製品を取り扱っている。そのガラスを用いてイノベーションを起こそうとしあらゆる分野において信頼されるパートナーになるという理想は、とても納得でき、理解できるものである。

2. この会社の競争優位性が理解できるか

当企業は欧州に強みを持っている。業界最大手の AGC は売り上げの七割弱を日本・アジア地域であるのに対して日本板硝子は 40%を欧州地域が占めている。また AGC はガラスだけでなく化学品やセラミックなど、ガラスで培った技術をもとに新しい分野を開拓しているのに対して当企業はガラスに専心している。ゆえに欧州地域でのガラス販売についてかなりの強みがあり、優位性があると理解できる。

3. その競争優位性に持続性があるかどうか理解できるか

ガラスは環境への悪影響が少なく、多くの用途で使われる。そのため上で述べたようにガラス販売に専心し、海外、特に欧米での売り上げが多い当企業の優位性は保たれやすいと考えられる。ガラス製品において高いシェアを占めているため他企業が参入できる余地が少なく障壁が高い。そのため当企業の競争優位性が高いまま維持され続け将来的にも希望を持てる企業であると理解できる。

4. この会社で自身の人的資本の価値向上を達成できると思うか

ガラス製品についての見識が深まるだけでなく、欧米やアジア地域に強みがあるために海外事業に携わることができる可能性が高く、英語に強くなりグローバルな視点を持つことができるようになるだろうと思う。

5. 報告書にはどのような改善余地があるか

年率 3%の売上増加を目標にしているが現段階では達成しておらず、板ガラスのコモディティ化が進展する中、商品コストで中国製品などに勝つことは難しい。そのため高付加価値製品へのシフトが必要である。またこの会社はスピードが遅いことが問題点としてあげられる。例えば電子製品の携帯電話はすぐに廃れてしまうが、ガラス製品の固定資産は 15 年ほどであるために変化についていきづらい面がある。ここを改善していけばより将来性がある

り時代の最先端を走る企業になっていけると思う。